

にいがた
勤務医ニュース

発行所
新潟県医師会
新潟市中央区医学町通 2-13
TEL 025 (223) 6381

医学部卒業という青空

新潟県医師会 理事 上村 朝輝



皆さん医学部卒業おめでとうございます。他の学部と異なり医学部の六年間の修学は厳しいものだったと思います。本誌が発行される頃にはすでに国家試験も終わって臨床研修への思いを馳せていることでしょう。新潟特有の暗い冬空の下でも青空を感じているのではないのでしょうか。私が卒業したのは昭和四十二年で随分古い話になりますが、インターンという感慨は今でも強く記憶に

残っています。皆さんが高校から医学部に入った時、そして医学部を卒業するに当たって抱く気持ちの中には医師として活躍しようという考えが必ずあったものと思います。その時の情熱、意欲を大切に持ち続けてほしいと心から願うものです。日本の病院医療が崩壊しつつあるといわれる今日、医師の使命感にだけ頼って医療を遂行しようとする考え方は時代錯誤であるという見方も存在します。確かに現状のような過重労働の中にいる勤務医の環境を大幅に改善しなければならぬことは喫緊の課題です。そのために種々のストラテジーが進行中ではありますが、行政、大学、病院管理者は一層の努力を続けなければなりません。臨床研修医の面接のときに学生時代の印象に残る思い出を聞きますと、ほとんどの方が部活での活動をあげます。そしてクラブの先輩、同僚、後輩との交流、人間関係の大切さ、部活での達成感や喜びを感じたことを話してくれます。臨床研修でもその後の専門分野の医師としてのコースでも先輩、同僚、後輩など多くの医師の中で、さらに

卒業おめでとう



新潟大学大学院医学総合研究科生体機能調節医学専攻内環境医学講座(第二内科) 教授 成田 一衛

『初心』を大切に 卒業生に贈るメッセージ

ご卒業おめでとうございます。卒業する皆さんの輝かしい前途を心から祝福し、この紙面を借りて一言御祝いを申し上げます。生として様々な活躍をされてき

よく言われることですが、卒業というものは同時に新たなスタートでもあります。皆さんと私は、昨日までは教わるものと教えるものという関係でしたが、今後は同じ医療・医学の分野で働く仲間になるということ、同じ最終目標を持つ、すなわち病(やまい)を癒すことを目指す同志として皆さんの活躍に期待し、心から歓迎致します。皆さんは、医学部生時代には医学の勉強の他にも部活動やサークル、あるいは社会との関わりをもって、学生として様々な活躍をされてき

たものと思いがすが、医師あるいは医学者としては、今スタートラインに立つには、全くの白紙の状態です。是非、社会人としての自覚を持って、今まで勉強してきた『理論』を、一つ一つ現場で実践しながら身につけて、医師・医学者として着実に成長していかって下さい。皆さんの今後の努力と、若干の運さえあれば、重要な発見や新しい治療法の開発を通して医学の発展に貢献したり、あるいは病気に悩む多くの人々の力になることができます。間違いない、皆さんの活躍を待つ舞台は、非常に広い分野にわたって拡がっており、また活躍の形にも多様な形があるのです。おそらく胸中には御自分の将来像、もしくは希望・夢があると思いがすが、卒業を前にした皆さんの今の新鮮な気持ち、つまりそれぞれの『初心』というものを、今しっかりと確認して下さい。なぜ医師(あるいは医学者)を志したのか、ということを意識して下さい。それは、一つではなく、まさに多様なものがあつて当然と思いがすが、その実現に向けて一歩一歩進んでいって下さい。一方、当面は二年間の臨床研修が始まりますが、そこで医療の現場を身をもって体験し、自分の目標とするものが新たに見つかることもあると思いがすが、それも大切にして頂きたいと思いがします。知識・判断力も含めた医療技術や研究手法の高度化と専門化は、急速に進んでおり、それに追いつきリードすることは並大

抵のことはありません。また現在の医療界を取り巻く環境においては、経済的な面でも人的な面でも、医療資源の不足が顕在化するなかで、安全かつ高度な医療が求められており、明るい状況ばかりではありません。しかし何よりも大切なことは、自らの心と身の健康であり、それが私達の活動の必須条件です。患者を大切にすることが、自らの限界や新しいことに挑戦する意欲、つまり『心』が、医療や医学の進歩には重要なことです。困難に直面したときでも、その『心』さえ見失わずに持ち続けることができれば、少なくとも目標に近づくことはできるはずで、私自身も新任の教授

として、この与えられた立場で医療・医学の発展と次代を担う医療人の育成に微力を尽くしたいという『初心』を忘れずに、歩んでいきたいと思っています。新潟大学医学部は今年、創立一〇〇周年を迎えます。偉大な先達たちによるこの医学部の歴史と伝統を引き継ぎ、次の一〇〇年の新たな歴史を築いていくのは、私たちの使命です。皆様は、私達の初心を忘れず、急峻な山道を歯を喰いしばって登り、そして樹木の背が低くなってきた中腹で振り返ると眼下に広がる素晴らしい景色を見るが如く、すがすがしい気持ちでその時を迎えられんことを祈っております。

卒業おめでとう「べいじやう」です 「初心忘るべからず」

労働者健康福祉機構 燕労災病院 院長 宮下 薫



ご卒業おめでとうございます。『よーしっ！』とこれからの医師としての仕事(医療の実践・医学研究)にと、意欲を燃やしていることでしょう。私が新潟大学を卒業した三十三数年前はどのようなであったかを振り返りまして、ようやく卒業試験が終わり卒業できることが決まっても、次の国家試験に向けて準備に入り、ただ慌しかったような記憶しか残っていません。私自身はずいぶん外科に所属しましたので第二外科、第一外科で四ヶ月研修後一般病院へ研修に出ました。以後、大学と関連病院を行き来し平成元年に東京都立駒込病院に勤務し、その後平成五年に現燕労災病院に赴任しています。ずっと臨床の現場、外科です。手術を中心にして患者さんと接してきました。学生時代、全学の

すめ」と題して寄稿したことがありました。つまりは外に飛び出せ！国内はもちろん外国も含めていろいろな人と出会い、いろいろな経験をしてこいということです。当院も医師不足が大変困っています。超医師不足の新潟県において、そのようなことを言いますと先輩諸氏から御叱りを頂くのは重々承知してはいますが、基本的には今でも同じ思いです。更に付け加えるならば、力をつけ新潟県に戻り医療に貢献して頂きたいということ。つたない私の経験からでも新潟県の医療レベルは総じて高く、新潟以外の出身者が東京を中心とした都市部で研修すると多少偏ってしまうため、私のところで何年間勤務してその後その先生の地元へ戻った方もおります。さて、『花鏡』に「初心忘るべからず」「風姿花伝」の「年来稽古条々」の中で「三十四五歳の頃の能、盛りの極めなり。ここにて、この条々を究め悟りて、堪能になれば、定めて天下に許され、名望を得べし。……もし、この時分に……名望も思ふ程なくば、いかなる上手なりとも、いまだ真の花を究めぬ仕手と知るべし。もし究めずば、四十より能は下るべし。これ後の証拠なるべし。さる程に、上るは三十四五までの頃、下るは四十以来なり。」という一文があります。勿論、これは能楽を極めてゆくための教えを説いているものですが、能楽に限らず医学、さらに広く一般のことにも言えることのように思っています。若い諸氏にはこれからいろいろな意味で多忙な毎日が続いていくかと思いがします。これからの十年が非常に大事な時です。上達する過程においてその時々には初心がありその初心を忘れず、急峻な山道を歯を喰いしばって登り、そして樹木の背が低くなってきた中腹で振り返ると眼下に広がる素晴らしい景色を見るが如く、すがすがしい気持ちでその時を迎えられんことを祈っております。

